

第14回 中央地区

ふれあい祭り

平成30年10月21日(日)に第14回中央地区ふれあい祭りが開催されました。晴天にも恵まれ、多くの皆さんにお越しいただきました!!



●街中ギャラリーでは昔懐かしいマッチ箱の展示も●



●沢山の展示が並んだ会場●



★水消火器での当てゲーム★



●新鮮な農産物の販売●

当日の様子を写真でお伝えします☆



●大手公民館 歌唱講座●



●よいまちクラブ●



●十三木曜会による太極拳●



●ビンゴゲームの景品もたくさんご提供いただきました。●



●楽団「ケ・セラ」の皆さんによるコンサート●



●賑わう休憩コーナー●

実行委員会の皆様、前日の準備から当日の運営、片付けと大変お疲れ様でした。



●ミニSLも運行したよ●



●こどもコーナー也大賑わい♪●

え!

中央地区は

33位!?



平成30年10月7日(日)に、第61回市民体育大会秋季大会が行われた。

順位は、35地区中…33位!!

どれどれ、中央地区の総合順位は、35地区中…33位!! どうした中央地区!と思う方もいるかもしれないが、弱い、強いではなく、競技に参加している人がいないのが理由だ。毎年、開会式だけ参加して解散しているのが現状である。そうなのか…昔は女子バレー、軟式野球、卓球、バスケット等に参加していた、軟式野球は強かったと中央地区の会長さんがおっしゃっていたな。だんだん人が減り、現在参加していないことは読者の皆さんも察してであろう。

ところで、開会式だけの参加なのに最下位じゃないのが不思議だな。この大会には、開会式の参加人数によって与えられる「団結点」があり、中央地区は下位のチームよりも開会式の参加者が多かったため、33位だった。

◆団結点とは?◆

開会式の参加人数によって配点される点数。

50人以上	…10点
40人~49人	…8点
30人~39人	…6点
20人~29人	…4点
10人~19人	…2点
1人~9人	…1点
0人	…0点

今年18人が開会式に集まり、2点を獲得した。その2点だけで最下位を免れた。

他に獲得できる点数に、「参加点」「競技点」がある。参加点は1競技に出場ごとに10点、つまり参加すれば10点が入る。競技点は軟式野球、卓球、ゲートボール、ソフトバレーボール、マレットゴルフでそれぞれ上位に入賞すると点が入る。現在、バスケットはないようだ。

地区で前述の競技が出来る人を探して、チームを作って参加すれば、参加点が獲得できる。とはいえ、なかなか人が集まらないと思う。人数が少なくても成り立つ競技は、卓球、マレットゴルフ…そういうえば中央地区はマレットゴルフ交流会を年に2回開いている。今年も春に中野市、秋には菅平高原のマレットゴルフ場へ行って来た。マレットゴルフは4人で1チームを組めば参加が可能だ。

《マレットゴルフ》(二部抜粋)

1 各地区男女1チームまで

2 1チーム選手4人とする

《マレットゴルフの競技点》

- 1位…18点
- 2位…16点
- 3位…14点
- 4位~7位…12点
- 8位~10位…10点
- 11位以下…5点

細かいルールはさておき、男女どちらか4人集めて参加すれば、参加点として10点が入る。そしてなぜか分からないがマレットゴルフは11位以下でも競技点として5点が入り、合計15点の獲得が可能だ。

ちなみに、二つ上の順位の32位は、第地区で21点(団結点6点、男子マレットゴルフ参加点10点、マレットゴルフ競技点5点)を獲得している。これを中央地区に置き換えると、開会式の団結点で2点、男子マレットゴルフの参加点で10点、競技点が最低でも5点、合計17点となる。さらに欲張ったことを考えると、女子のマレットゴルフのチームが参加すれば、参加点10点、競技点が最低でも5点入り、合計32点にもなるのである。こう考えると実現できるような気がしてきた。

他にもかくにも、マレットゴルフの選手を集めないと始まらない。周りにマレットゴルフの

経験者がいる、初心者だが挑戦したい、そんな読者は大手公民館まで情報提供を。もちろん他の競技についても大歓迎だ。来年は元号が変わり、新しい事を始めるには持ってこいの年だ。市民体育大会においても、中央地区の一步が再び踏み出されることを祈るばかりだ。



マレットゴルフ競技者求む!!

長元坊 チョウゲンボウ

「小さな地球」

大きな地球

日常的に私たちが認識している大きさで、小さい方は土の粒(大まかに百分の3mm前後)でしょうか。それに対して大きい方は宇宙ですね。

地球の直径は13,000(一万三千)km、太陽は1,400,000(140万)kmで地球の約100倍ですね。地球から太陽までの距離は149,600,000(1億4千960万)kmです。こうなるとkmでは0が多すぎて分かりにくいですね。夜見える星(恒星)は桁違いに遠いんですね。そこでkmではなく光年という単位を使うようになっていきます。光は1秒間に地球を7周り半するということ事は皆さんよく知っています。その光が1年かかって飛ぶ距離が1光年です。一番近い恒星(プロシヤ、ケンタウリ)でも4.2光年で、想像出来ない位遠いですね。私達の地球を含む太陽系の大きさは直径3.2光年、天の川銀河の直径は約10万光年だそうです。この様な銀河が無数に存在するという宇宙から見た地球は、豆粒いや粟粒いや砂粒にも満たない存在でしょう。また、私達から見た地球はとてつもない大きさですね。

地球の半径は6,600km、生存可能な高度は約4km、半径の1/6,650分の1です。サッカーボール(直径25cm)を地球とすると、ボール表面0.07mm(百分の7mm)の所で人類が存在している事になりますね。

何だか、何とも、か弱いと思いませんか。大事にしなればと思いますよ。

(ネットその他より引用)

(T・M)

※「松本城の野鳥たち」はお休みします。